

リサイクル施設完成 朝霞共同アスコン



三井住建道路と北川ヒューテック、フジタ道路で構成する共同企業体・朝霞共同アスコンが、埼玉朝霞市で建設を進めていたリサイクルプラントが完成した。写真。20

15年10月のアスファルト合材プラント更新と並行して進めていた同工事の完了で同施設のすべての設備が完成し、完全リニューアルオープンとなった。



佐々木支店長

新設されたリサイクルプラントの破砕能力は1時間当たり77ト。処理されたアスファルト廃材は再生アスファルト合材、コンクリート廃材は再生路盤材に活用され、20年の東京五輪に向けたインフラ整備需要などに対応する。中山鉄工所が各種機械の施工、伊田テクノスが建物の建築工事を担当した。

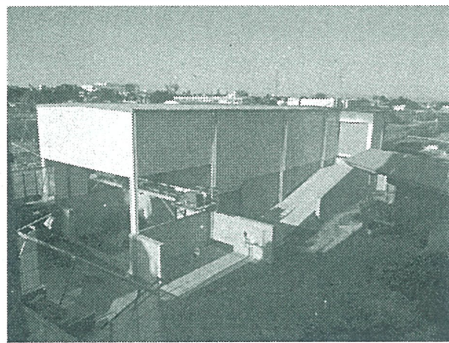
田テクノスが建物の建築工事を担当した。

16日の落成式で、三井住建道路の佐々木日出幸常務執行役員関東支店長は「これまでアスファルトプラントでのリユースだったが、今後はリサイクルもできる工場となった。お客さまの満足度と品質をさらに向上し、営業エリアの拡大を図りたい。工場長を始め職員一丸となって安全を第一に、環境に配慮した工場運営に取り組んでいく」とあいさつした。施工者を代表して中山鉄工所の中山弘志社長は「皆さまのご協力があり事故なく完成を迎えられた。事業の収益が上がり、安全な運営が続くことを祈念する」と述べた。

2017年3月28日付 建設通信新聞

リサイクルプラント新設 朝霞共同アスコンで落成式

三井住建道路JV



完成した。

共同アスコンの再構築事業として、15年10月に更新を終えたアスファルトコンクリートプラントに続いて完成した同施設は、廃材を再生合材や路盤材に再利用するための中間処理能力を持つ。同施設は廃材の再資源化と東京五輪・パラリンピックの開催に伴う合材需要の増加をにらみ昨年9月に着工し、1時間あたりの処理能力は約77ト。最新設備を導入することで、粉じん・騒音といった環境負荷の低減が期待できる施設となっている。

今月16日に現地で行われた落成式には、佐々木日出幸三井住建道路常務執行役員関東支店長らが出席。事後の直会（なおらい）で挨拶した佐々木支店長は「2年間にわたり行ってきた、合材プラントの更新、リサイクルプラントの新設により、東京オリンピック開催に向けたインフラ整備

として都内への需要が見込まれる中、顧客の満足度向上はもとより、品質のさらなる向上を行い、営業エリアの拡大を図る」と決意を新たに述べた。加藤賢治工場長も「無理難題に心をこめてくれた施工会社、関係者に感謝したい。合材出荷量が日本一多いこの地域では、近隣にプラントも多く、（再構築事業によって）ようやく肩を並べることができ」と完成を喜んだ。



挨拶する佐々木支店長

（佐賀県武雄市、中山弘志社長）、躯体工事を伊田テクノス（埼玉県東松山市、伊田登喜三郎社長）がそれぞれ担当した。

2017年3月28日付 建設産業新聞